

ミャンマーの生活困窮者への支援

～ミャンマーの現状と人々の生活状況悪化～

2021年2月の軍による違憲クーデターに対して、国民は一丸となって大規模な抗議行動を展開しました。しかし軍の残虐な弾圧によって、民衆による表立つての抗議は不可能となり、やむなく組織されたPDF(軍に抵抗する正統な国民統一政府(NUG)の武装組織「国民防衛隊」)が武力で抵抗する展開となり、ミャンマーは内戦状態となっています。ここで重要な点は、あくまでもPDFは、抵抗する若者たちが丸腰で軍に殺されていくだけの状況を食い止めるべく、やむなく組織されたものだということです。残念なことです、不当な支配に屈せず抵抗を継続するには、武力で対抗するしかなかったのです。

こうして軍の残虐な弾圧下においても抵抗を継続する若者たちはPDFに参加。それ以外の一般市民は軍の支配下で生きるためにやむなく通常の生活に戻りました。それによって多くの町や村では抵抗の動きは止まりましたが、PDFに軍事面で協力している少数民族の地域では戦闘があり、犠牲者が出ています。また最大都市ヤンゴンも通常通りの社会生活が営まれているかの如く見えますが、再開された学校へ通う生徒や学生は少なく、とりわけ大学生は、郊外あるいは地方に移動してしまった者も少なくありません。なぜならヤンゴンでは、PDFの都市ゲリラ部隊が活動を展開して軍への抵抗を実行しているため、軍の“PDF狩り”によって若者が連行され、中には死に追いやられる事態もあるからです。

通常の生活に戻った一般市民も、経済の悪化で苦しい生活を余儀なくされています。とりわけ電力供給や通信などの社会インフラの悪化と料金の値上がり、そして原油価格の上昇は、人々の生活を圧迫しています。こうした経済の悪化の影響を最も受けるのが、日雇い労働で生活している人々です。ミャンマーでは、農村で農作業をしている人、漁村で漁をしている人、そうした人たちの多くは農民や漁民ではなく、日雇いの肉体労働者なのです。コロナ禍とクーデターによって、その多くが、仕事が半減するか、中には無職となってしまった人もいます。

現在、ミャンマー全土にこうした生活困窮者が大勢います。ミャンマー中部のメイティーラ市では、郊外の村などにおいて大勢の生活困窮者が日々、ギリギリの生活を強いられています。現地の僧院はまさに駆け込み寺で、その中心的存在の僧侶の方が生活困窮者の生活実態を伝えてくださいました。その話の中で多くの方々に共通するのは、仕事が半減あるいはまったくなくなり、僧侶の托鉢の余りものを食べてその日をしのぎ、ギリギリの生活をしているということ。いずれの方々も最も必要としているのは、米と食用油、そして現金です。人々にとって現金支給は最も効果的な支援のひとつである、と僧侶は説明してくださいました。用途は様々で、健康面に問題がある方は薬を買いたいとのことでした。



一人暮らし 67歳の女性は、僧侶に建ててもらった小屋に住み、僧院で手伝いをして、托鉢の余りものを食べてその日をしのいでいる。

※支援は、NPO法人日本ミャンマー・カルチャーセンター(理事長: 落合清司)が、ゼーヤーブーミ僧院の僧侶ウ・ダマタラ師を通じて、メイティーラ郊外の村における生活困窮者への米、食用油、現金の支給という形で実施します。

ご支援の際は、以下の口座にお振込み頂ければ幸いです。

三井住友銀行(0009) 高田馬場支店(273)

普通 9114083

日本ミャンマー・カルチャーセンター 代表ヘーマーウィン

(ニホンミャンマーカルチャーセンター ダイヒヨウヘーマーウイン)

NPO法人 日本ミャンマー・カルチャーセンター(JMCC)

東京都豊島区高田 3-13-6 GRACE 高田馬場 403

Tel : 03-3980-7152

E-mail : info@jmcc.jp

Website : <https://jmcc.jp>